

平成目安箱への回答 No.22 大磯町におけるイノシシ対策と総合的里山資源活用提言書について

担当主管課：産業観光課産業振興係（内線 263）

要望等内容

大磯町山間部を中心に出没しているイノシシに関して、2014年12月20日に「大磯イノシシ会議」と題する町民有志の懇談会を行いました。その中で、大磯町が現在実施している現行の害獣対策の枠組みではイノシシの被害を食い止めることが出来ず、大磯町役場？大磯町猟友会？農作物被害に遭われている農家？住民の間に、様々なすれ違いがあることが議論されました。詳細は以下ホームページに順次掲載予定の「大磯イノシシ会議報告書」をご覧ください。

<https://www.facebook.com/concon.oiso> https://twitter.com/oiso_concon

イノシシによる農作物被害は今後増加を続け、近いうちに人的被害まで生じることが強く懸念されます。具体的には、町民が帰宅途中などにイノシシに襲われる事態が発生する恐れがあります。

一人の大磯町民として、また里山の農業及び生態系を研究する専門家として、私は大磯町の山間部を大磯町猟友会で害獣駆除を引き受ける方と1年以上に渡って調査した結果、イノシシによる人的被害の発生は既に時間の問題であると判断せざるを得ない状況です。イノシシによる人的被害が発生した場合は、その責任の一端は自治体の管理責任にあるにもかかわらず、現在大磯町役場(産業観光課)から実施されている害獣駆除対策は、人的被害を防ぐためには制度的にも量的にも全く不十分です。

一方で、大磯町民の間には、形式的な害獣駆除を超えて、イノシシを一例とする里山資源活用の動きが生まれつつあります。例えば、大磯町猟友会が捕獲したイノシシを、町内のレストランに流通させ、経済的資源や食育の材料とし、心身ともに豊かな生活の糧に活用する動きが生まれつつあります。また、それを支援するために、里山にセンサーを配置し、より正確にイノシシの生態や被害状況をモニタリングする活動を1年間続けて参りました。

今回の「大磯イノシシ会議」では、イノシシ問題が従来の行政と猟友会頼みの害獣駆除では捉えきれない広がりを持っていること、また害獣対策だけではなく、里山資源の一つとして地域の経済や観光資源に転換して行くことが重要であるという総合的な認識が生まれました。

イノシシによる人的被害の発生を防ぐためにも、また日本有数の自然を育む大磯町の生態系保全のためにも、このような多層に渡る町民の生態系保全？活用活動に、大磯町からの支援と協力を要請します。その中で、深刻な人的被害が発生する前に従来のイノシシ対策を抜本的に見直し、イノシシに関心のある町民と広く協力して、実効性のあるイノシシ対策と資源としての活用に必要な計画と予算を速やかに立案することを提言します。その過程で、現行の大磯町役場の担当窓口(産業観光課)に一任せず、イノシシ問題に関わる町民からの意見を広く取り入れ、生活の安全、農作物被害、地域経済、教育活動、観光などイノシシを一例とした「里山資源の活用」に関わる社会活動を総合的に討議し施策決定出来る分野横断的な行政機関の設置を提言します。

回答

町政につきましては日頃よりご理解、ご協力いただきありがとうございます。さて、町におけるイノシシ対策についてですが、農作物等、農家への獣害防止の観点から、次の対策を行っております。

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1 有害鳥獣捕獲（猟友会へ委託） | 2 被害防除資材（電気柵等）の購入費の助成 |
| 3 狩猟免許取得費の助成 | 4 耕作放棄地の解消 |
| 5 試験圃場での被害防除の検証 | 6 卓話集会等での対策方法の普及 等 |

また、人的被害防止については、たて看板や広報紙で注意を呼びかけ安全対策の周知を行っております。

獣害対策は、「田畑の囲い」、「集落や農地の環境改善」、「駆除」の3つの側面からの総合的対策が必要といわれており、それに沿って対策を講じてまいりましたが、町としても問題解決に苦慮しているところです。そこで、今年度はステップアップを図るため、農家を対象に専門家により地域全体で勉強する機会を設けました。勉強会では、「対策をどうするかということより、どういう順番で行うかが重要である」と指導を受け、①地域全体で勉強②集落や農地の環境改善③田畑の囲い④駆除 の順番で行うと効果が出るとのことでした。町内の現況は、農作物の他にも作物残渣や放棄果樹、青草等のイノシシを増やす原因となる栄養価の高いエサを自由に食べさせている状態であるため、この状態でいくら駆除しても効果はなく、前述の専門家からは環境の改善が必要であることと、一部の人が改善しても効果が上がらないため、地域全体で同じ知識を共有することから始めるべきであるとの指摘も受けております。

町としましては、地域全体での知識の共有と、それにつづく地域環境の改善に力を注ぐため、講習会の開催を充実していきたいと考えています。また、駆除については、猟友会への過度な負担とならないよう、実施体制の改善を図ってまいります。専門家の指摘では、駆除から対策を始めると、大掛かりにやればやるほど「対策は誰かにやってもらうもの」と思い込む人を増やすだけになり、住民の自発的な環境改善や活動を封じ込めてしまうことになるため、地域全体で勉強を始めたばかりの大磯町では、駆除の量的拡大は慎重に進めたいと考えています。

また、イノシシの資源としての活用については、先行事例の視察等で情報収集を行っておりますので、皆さまから良いアイデアがありましたらお寄せいただき、町としましても出来る限りご協力したいと考えています。

獣害は、町民の皆さまと行政の協働なしには克服できません。町民の皆さまによる様々な自主活動が進行していることに感謝申し上げますとともに、具体的に町へご相談いただければ、可能な範囲で支援・協力を検討いたします。

また、里山資源の活用については、町民の皆さまと行政が対話と協働により多様な観点から検討していくべき内容であり、実現に向けて調整を進めていきたいと思っておりますので、今後ともご協力をいただけましたら幸いです。この度は、貴重なご意見をありがとうございました。

目安箱受付日：H26. 12. 25

掲示日：H27. 1. 22